▼コセンティクス皮下注　［注］

【重要度】　【一般製剤名】セクキヌマブ（遺伝子組換え）　Secukinumab（Genetical Recombination）　【分類】ヒト型抗ヒトIL-17Aモノクローナル抗体製剤
【単位】▼150mg/Syr［1mL］
【常用量】1回300mgを，初回，1週後，2週後，3週後，4週後に皮下投与，以降4週間の間隔で皮下投与■体重60kg以下では1回150mgを考慮
【用法】皮下注［大腿部，腹部，上腕部とし，毎回変える］
【透析患者への投与方法】データはないが，PKは変化しないと推測（1）
【保存期CKD患者への投与方法】データはないが，PKは変化しないと推測（1）
【特徴】ヒトIL-17Aに対するIgG．IL-17Aは尋常性乾癬，関節症性乾癬，関節リウマチ，強直性脊椎炎などの自己免疫性疾患／炎症性疾患との関連が示唆されている．既存治療で効果不十分な尋常性乾癬，関節症性乾癬に適用される．
【主な副作用・毒性】感染症，アナフィラキシー，血管性浮腫，蕁麻疹，好中球減少，結膜炎，下痢，肝機能検査値異常，頭痛，注射部位反応など
【安全性に関する情報】投与前に結核を否定しておく（1）他の生物学的製剤との併用は行わない（1）
【F】77%［sc］（1）
【tmax】8日［sc］（1）
【代謝】生体のイムノグロブリン代謝過程をたどる（1）
【排泄】尿中には排泄されない（1）
【CL】体重に正相関（1）0.114＝0.121L/day［iv］（1）
【t1/2】26～30日（1）
【蛋白結合率】資料なし（1）
【Vd】体重に正相関（1）5L/man（1）皮膚間質液への移行性を検討した報告（Dragatin C, et al: Exp Dermatol 2015 PMID: 26439798）
【MW】約151,000
【透析性】透析されない（1）
【相互作用】生ワクチン接種は行わない（1）
【主な臨床報告】関節症性乾癬への臨床効果（Mease PJ, et al: N Engl J Med 373: 1329-39, 2015 PMID:26422723）非感染性ブドウ膜炎には静注で適用がベター（Letko E, et al: Ophthalmology 122: 939-48, 2015 PMID: 25638011）感染，関節炎への治療効果のレビュー（Sanford M and McKeage K: Drugs 75: 329-33, 2015 PMID: 25648267）

【効果発現時間】治療反応は，通常投与開始から16週以内に得られるため，16週以内に治療反応が得られない場合は治療計画の継続を慎重に再考（1）
【更新日】20241028

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。